

# (1) 駅前にある北広公園とは？

JR北広島駅西口から西に約200m離れた位置に、約50年前に整備された北広公園があります。北広公園は多くの木々に囲まれたとても緑豊かな公園であり、多くの方が利用する北広島駅からのアクセス性が非常に高い場所に位置しています。

一方で、駅前という利便性の高い場所に位置し、広大な敷地面積等を兼ね備えている公園でありながら、利用者が限定的になっている等、北広公園が本来持つポテンシャルを発揮出来ていない点が課題であると認識しています。

これらのことから、公園自体がもつ本来のポテンシャルを発揮し、より効果的に活用するため、北広公園のリニューアルを予定しています。



### 公園概要

【名称】	北広公園
【種別】	近隣公園
【所在地】	北広島市栄町2丁目51番
【面積】	26,523㎡
【供用開始】	昭和47年(1972年)
【人口(S47)】	11,288人

# (2) 北広公園が整備された約50年前の様子は？

## 北広島団地造成のヒストリー

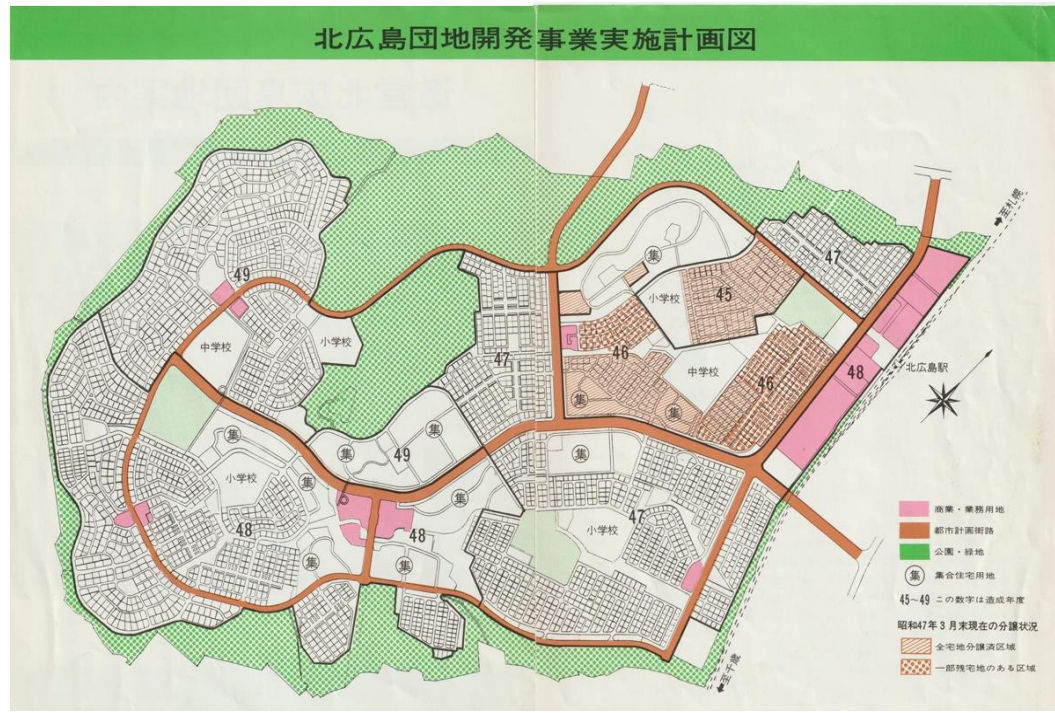
昭和45年(1970年)から、北海道による真駒内、大麻団地に続き、3つ目の道営団地である北広島団地の造成が始まりました。開発の目的は、過密化傾向である札幌圏の人口・産業の計画的措置であるものの、単なるベッドタウンではなく、団地周辺の既成市街地を含めまちづくりの核となるよう計画されました。

区域内の樹木は、公園や緑地等に保存し、現地形を生かした配置となり、このことによって、緑豊かな自然環境にとけ込んだ住宅団地となっています。

また、北広島団地では、収容人口3万1千人、収容戸数約8千戸を基本計画としており、当市の急速な人口増加の契機となりました。



(昭和45年)北広島団地起工式。当時の北海道知事である町村金吾知事も参列しました。



(昭和47年)北広島団地開発事業実施計画図です。地図上の数字は造成年度を示しています。



(昭和47年頃)北広公園あたりの写真です。



(昭和55年頃)まだ造成中の団地地区にて、通勤の様子です。奥に写るのは輝美団地です。

## 人々の豊かな暮らしのために

右側のチラシは、北広島団地の分譲時における広告チラシです。広々とした土地の分譲に加え、駅、商業施設、小学校等の生活利便機能と併せて、公園があることも当時の人々の暮らしの質を向上させるための大きな魅力の一つでした。





# (3) 時代の経過に伴い、市を取り巻く環境の変化

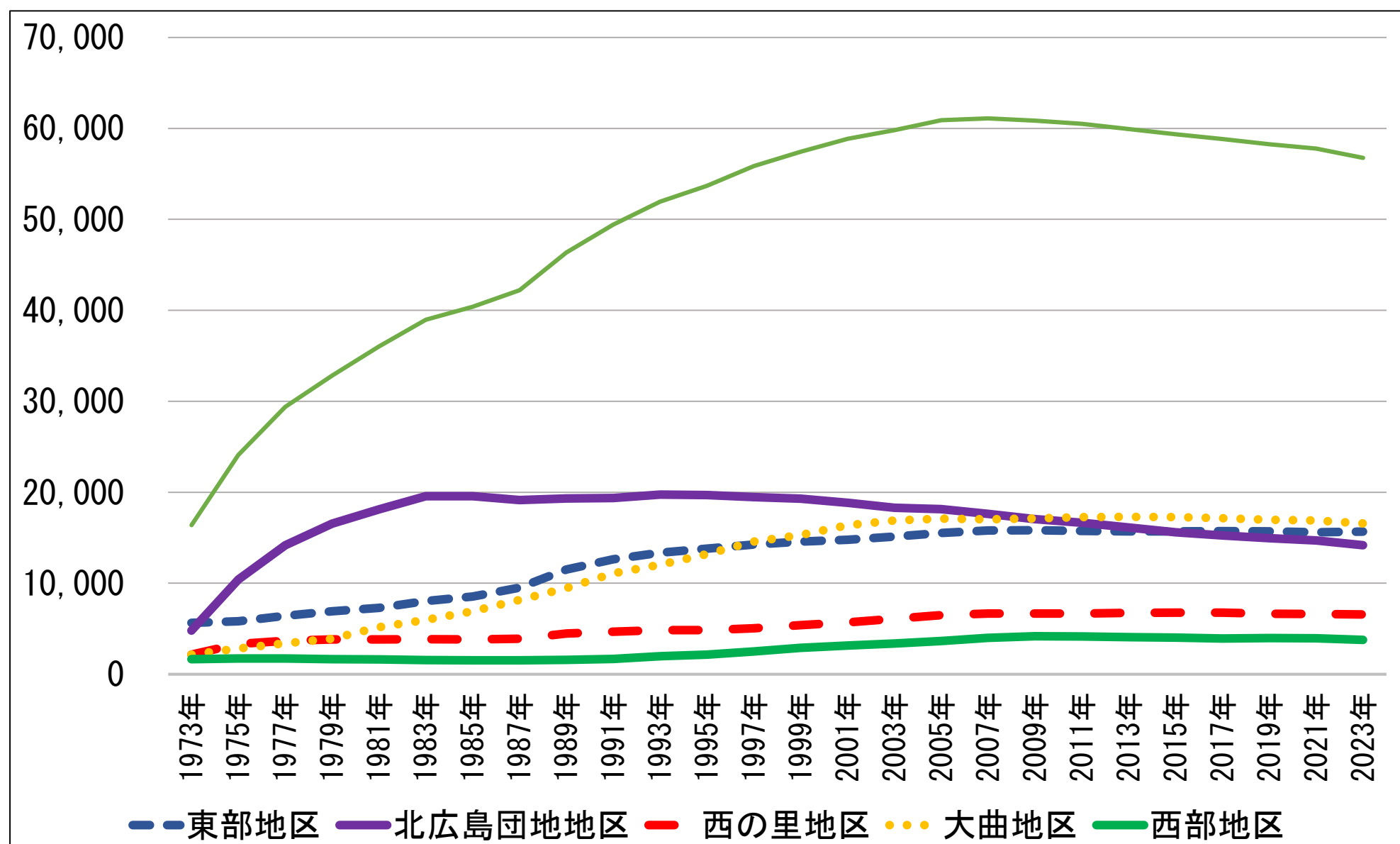
右肩上がり順調に増加してきた人口も、全道平均を下回る出生率や高齢化の進展、東京圏や札幌市への人口流出などにより、平成19年（2007年）をピークに減少に転じています。

特に、北広島団地地区は、市の中心的地域として、主要な都市機能が立地しているものの、市内の中で最も人口減少率と高齢化率が高い状況となっております。

人口減少が進むことで、税収の減少や消費の低迷、労働力不足、地域コミュニティの衰退など幅広い分野に深刻な影響を及ぼす可能性があります。

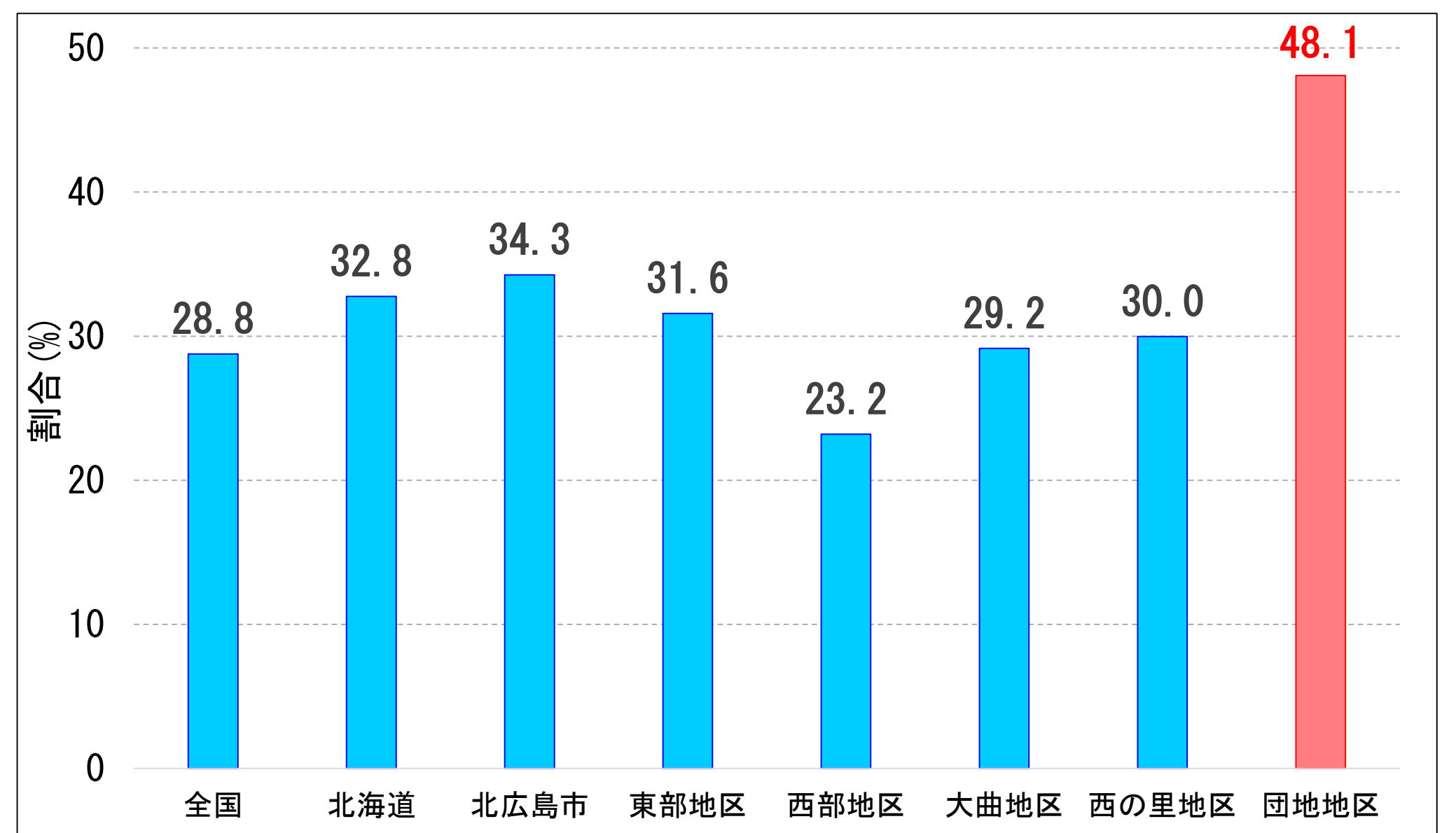
上記のように、人口減少によって、あらゆる面でのサービス等の維持が難しくなる一方で、現代社会は多様化しており、複雑化した市民ニーズへの対応が求められています。

【地区別人口の推移】



※北広島市「住民基本台帳」より作成

【地区別の高齢化率】



※北広島市「住民基本台帳」に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和6年1月1日)(全国、北海道) 北広島市地区別高齢化率(令和5年度末)(北広島市、各地区)

# (4) まちづくりの転換期(北海道ボールパークFビレッジの開業)

## 北海道ボールパークFビレッジの現状

令和3年3月に北海道日本ハムファイターズの新たな本拠地である北海道ボールパークFビレッジの開業によって、多くの方々に北広島市へお越しいただく機会が創出されています。

また、ボールパークの開業をきっかけに、全国的に市の認知度が向上したことや、市内においては、飲食店やホテル等の商業機能が増加傾向であり、徐々に波及効果が現れ始めています。



## ボールパーク構想とは？

官民連携プロジェクトとして、新球場を核としたボールパークを整備することで、まちづくりの様々な分野に波及効果を生み出し、持続可能な都市経営と地域課題の解決を図る構想です。

北広島市では、このボールパーク構想と連携した新たな価値の創造に向けて、まちづくりを推進しています。





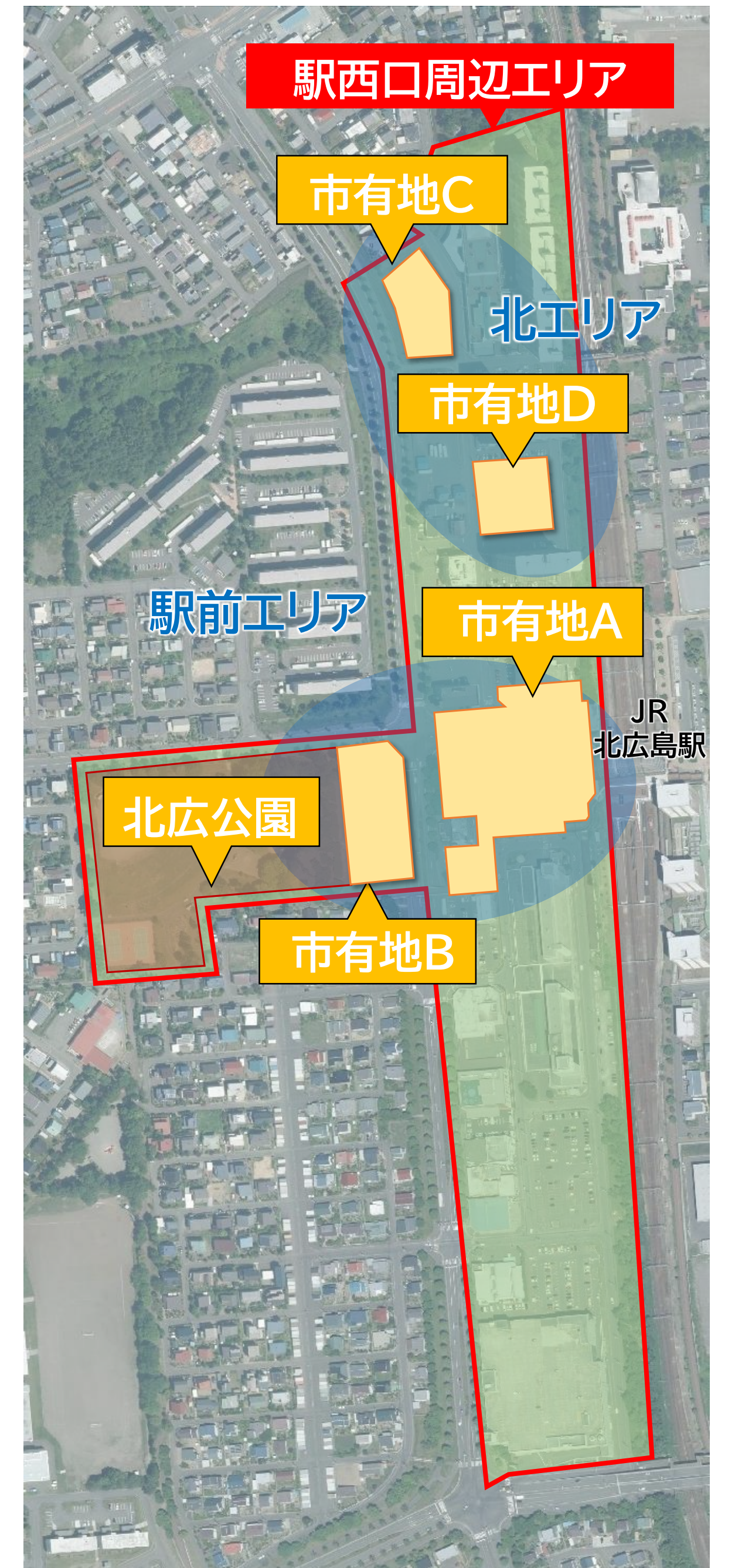
# (5) まちづくりの転換期 (JR北広島駅西口での新たな顔づくり)

## 駅西口周辺エリア活性化事業の経緯

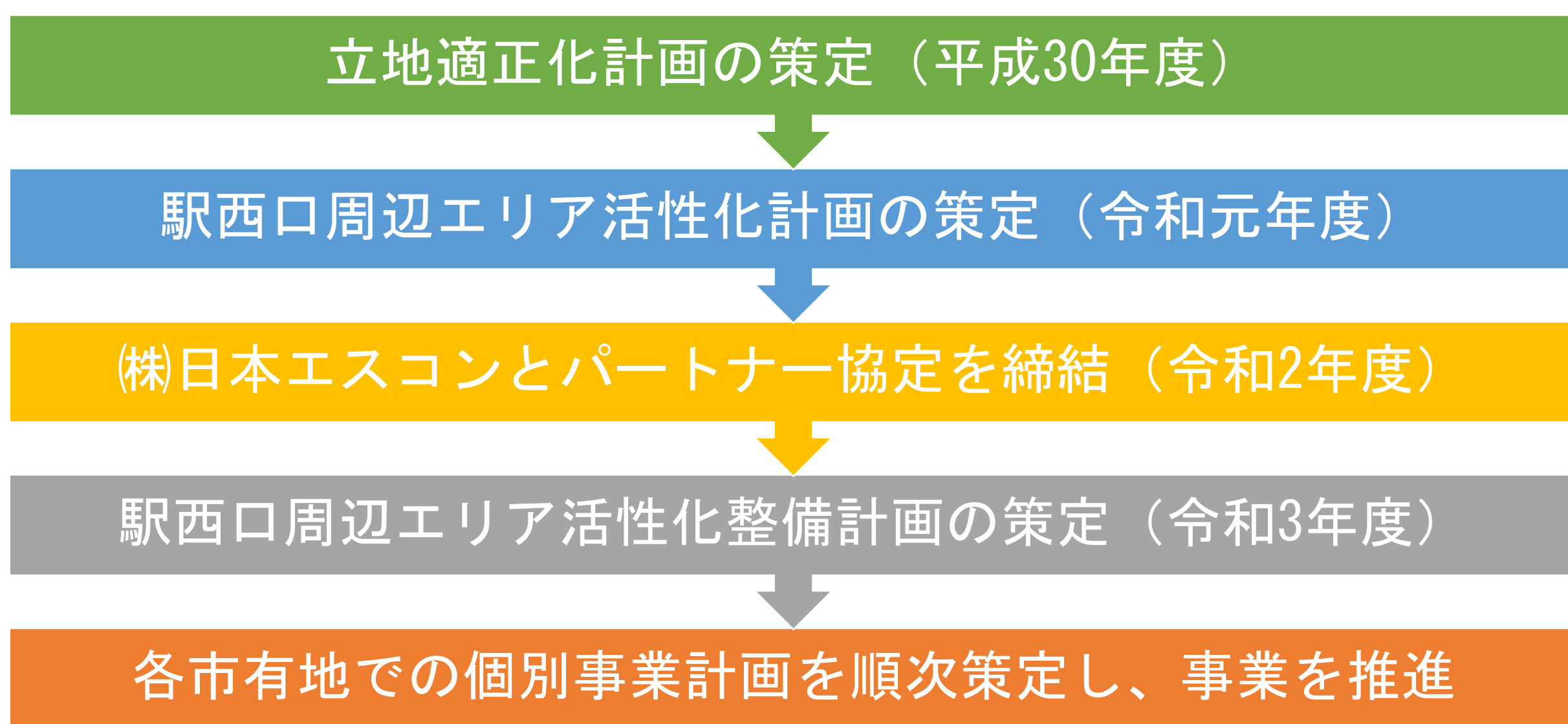
JR北広島駅周辺エリアは、立地適正化計画において都市機能誘導区域に位置付けていること等に加え、ボールパークへのアクセス拠点となることで、当該エリアが担う役割は、ますます重要なものとなっています。

一方で、駅西口周辺エリアにおいては、高度利用されていない土地や未利用の市有地が残されている状況であることから、駅周辺エリアの魅力と価値を高めるような市有地の効果的な活用を行うため、官民連携プロジェクトとして北広島の顔となるにぎわいと交流を生む拠点の形成等を目指しています。

【エリア図と活用する市有地】



## これまでの取組



# (6) 駅西口での整備内容

## 市有地A 個別事業計画を策定 (令和3年11月)

駅前広場再整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャトルバス乗降場、歩行者動線上への屋根、歩行者デッキの整備</li> </ul>
複合交流拠点施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>1~3階は、飲食店、カフェ等が入った商業施設トナリエ北広島</li> <li>4階以上は、158室のホテル、レストラン、コワーキングスペース、サウナ等</li> </ul>
立体的広場の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外に立体的な広場の整備</li> <li>公共空間の道路の一部を広場に変更</li> </ul>



## 市有地B 個別事業計画を策定 (令和5年3月)

居住交流施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>197戸の分譲マンション、認可保育所、歩行者デッキ、生活利便機能の整備</li> <li>新たな歩行者ネットワークと滞留空間の創出</li> </ul>
北広公園の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>北広公園の一部リニューアル</b></li> </ul>





# (7) 北広公園リニューアルの検討経過

## ●北広公園のあり方を検討するワークショップを開催

□ 1回目は、市内4か所の公園を視察(令和5年7月2日開催)



□ 2回目は、視察の結果をもとにグループワークを実施し、各グループで発表(令和5年7月15日開催)



## ●POPUPイベントの開催

□ 冬期間の活用を検証するため、冬のアクティビティやグルメを楽しめるイベントを開催(令和6年2月23日開催)



## ●都市利便増進協定の締結

□ 北広公園等を都市利便増進施設として設定し、憩い空間の創出やイベント等による地域の活性化を図りながら、一体的に整備・管理していくことを目的とした「都市利便増進協定」を株式会社日本エスコンと締結(令和6年6月締結)

## ●市民説明会の実施

□ これまでの検討経過を踏まえて作成したリニューアル案について、市民説明会を実施(令和6年8月2日実施)



### 【説明会で寄せられた主な意見】

水系施設の設置や可能な限り既存樹木を残してほしい等のハード整備に関するご要望が一部あったほか、ゴミや騒音対策や住民参画機会の創出等、持続可能な運営管理に関するソフト施策についてのご意見・ご関心をいただきました。

# (8) 北広公園のリニューアル内容

## 公園が身近にあるライフスタイルによって暮らしの質を向上

### コンセプト

子どもから高齢者までの多様な世代が集まり過ごすことのできる北広公園に育てる

### 手法

ハード整備のみに限らず、ソフト施策をセットで検討するリニューアル

### リニューアルによる効果

- より良い憩いの空間づくりに加え、活用しやすい場となるハード整備
- 住民等が主体となり、工夫次第で多種多様な使い方ができる場へ
- 新たな価値の創出や社会課題解決の場へ